

(3) 専門分野 I

【ねらいと構成】

「専門分野 I」は、「専門分野 II」および「看護の統合と実践」の基盤の分野として位置づけ、看護学の根幹をなす看護の本質と看護の基本技術を学ぶ。  
 本校では薄井坦子氏による科学的看護論を教授し、対象の見つめ方から看護を展開する実践方法論を学習する。  
 また、看護の基本技術として、  
 ・看護者と患者や医療従事者との関わり方を学ぶコミュニケーション技術、  
 ・看護の視点を意識して患者を観察して判断できるためのフィジカルアセスメント、  
 ・患者の日々の生活を整える日常生活援助技術、  
 ・診断・治療を助ける技術の基本  
 を学び「専門分野 II」の各看護学につなげる。  
 さらに、基礎看護学実習 I・IIにおいては、患者にとって看護になるような関わり方の基礎を築いていく。

専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1単位 15時間	看護学の構造、看護とは、看護の歴史、看護における倫理、看護活動のしくみ
		看護学原論	1単位 30時間	科学的看護論とは、目的論、対象論、方法論 実践方法論
		コミュニケーション論	1単位 15時間	効果的なコミュニケーション技術の方法論
		コミュニケーション技術	1単位 30時間	臨床でのコミュニケーション技術、看護場面の再構成と分析・考察
		フィジカルアセスメント I	1単位 30時間	フィジカルアセスメントの概念・基本技術 一般状態の観察・呼吸・循環
		フィジカルアセスメント II	1単位 30時間	消化・運動・感覚・中枢神経系・頭頸部
		看護共通基本技術	1単位 30時間	技術の概念 観察・記録・報告 安全と安楽
		日常生活援助技術 I	1単位 15時間	環境を調整する援助技術
		日常生活援助技術 II	1単位 15時間	運動と休息に関する援助方法
		日常生活援助技術 III	1単位 30時間	身体の清潔と衣に関する援助方法
		日常生活援助技術 IV	1単位 30時間	食と排泄に関する援助方法
		診断・治療を助ける援助技術 I	1単位 15時間	診察と感染予防に関する援助技術 呼吸と循環を整える援助技術
		診断・治療を助ける援助技術 II	1単位 30時間	与薬と検査に関する援助技術
		看護基本技術	1単位 30時間	対象の状況に応じた援助技術
		15 単位		
	臨地実習	看護過程展開の方法	1単位 30時間	対象の見つめ方と看護実践方法論
		基礎看護学実習 I	1単位 45時間	患者の療養生活と看護の実際を知り、日常生活援助に参加し関わりを学ぶ
		基礎看護学実習 II	2単位 90時間	指導者の看護計画のもと、日常生活援助を実践する
3 単位				
18 単位				

科目群: 専門分野 I

3年度	授業科目	看護学概論	担当 教員	小笠原 順美	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
学習目的・目	<p>目的: 看護学の導入として看護の全体像を理解し、今後の学習活動に結びつける</p> <p>目標: 1. 看護とは何か、看護師とはどのような職業か説明できる。 2. 生活者としての看護の対象について説明できる。 3. 倫理原則を理解し、実習場面における倫理的行動を説明できる。 4. 西尾市民病院で協働する多職者とその役割について説明できる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	備考	
1	/	看護を学ぶにあたり ①私が考える看護とは…自己の体験より ②ナイチンゲールの功績と看護覚え書	講義 グループ ワーク	教室	次回までに教科書 P13-14 読んで参加	
2	/	看護の変遷 看護の役割と機能(ナイチンゲール・ヘンダーソン)	講義	教室	次回までに2025年 度問題について調 べて参加	
3	/	2025年問題と保健・医療・福祉 地域包括システム	講義 グループ ワーク	教室	次回までに西尾市 民病院のホーム ページで、病院の 理念・看護部の理 念・病院で働く他職 種を確認する	
4	/	看護職と協働する他職種 ・看護職 ・西尾市民病院で働く他職種	講義 グループ ワーク	教室	次回までに、生活 を送るうえで大切 していること、ど のような生活をして いるか表現しよう	
5	/	生活するとは 生活者としての人間とは	講義 グループ ワーク	教室		
6・7	/	看護の倫理 ・看護倫理と看護師等の責務 ・事例をとおして倫理的行動について考える。	講義 グループ ワーク	教室	事例についての自 己の考えを準備し て7回目の授業に 参加する	
8	/	試験		教室		
評価方法	課題・小テスト(30点)と筆記試験(70点)で評価する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学① 西東社 『ナイチンゲールの看護覚え書 イラスト・図解でよくわかる』 現代社 『看護覚え書—看護であること 看護でないこと—』(改訳第7版) 訳 湯槇ます他 講談社 看護のための疾病論 『ナースが視る病気』					
参考書	医学書院 『きらり看護』 川島みどり 日本看護協会 『看護の基本となるもの』 湯槇ます他					
履修上の留意点	授業では、ネット検索可能な端末機(スマートフォン等)を持参してください。					

科目群: 専門分野 I

3年度	授業科目	看護学原論	担当教員	深谷 英子	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>目的: 科学的看護論に基づいた看護の考え方や対象の見つめ方を学ぶ。</p> <p>目標: 1. プロジェクト学習の方法と意義を理解し、「意志ある学び」を身に着ける。</p> <p>①「大切な人」の健康課題を発見することができる。</p> <p>②目標を設定し、目標を達成するための計画を立案できる。</p> <p>③情報を分析し、根拠をもって、問題を解決できるよう取り組むことができる。</p> <p>④自己の成果物をプレゼンテーションでき、自己評価・他者評価することができる。</p> <p>2. 看護をするために必要な「看護」「人間」「健康」「病気」「生活」についての考え方を理解することができる。</p> <p>3. 病気をもつ対象の見つめ方を理解することができる。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1-1. ナイチンゲールプロジェクト ・ナイチンゲールの眼差しを持つプロジェクト(ナイチンゲールプロジェクト) ゴール「大切な人の健康を守るための提案をしよう」 ・ナイチンゲールの眼差しとは	講義	教室		
2	/	2-1. 看護の対象である人間とは	講義	教室		
3	/	1-2. ナイチンゲールプロジェクト ・「ビジョン」「ゴール」を設定し、ゴールシートに記入 ・「大切な人」の健康課題とその原因を明らかにする。	講義	教室	「大切な人」の複数人の観察をし、一人に絞ってくる。	
4	/	2-2. 人間の健康と生活とは	講義	教室		
5	/	1-3. ナイチンゲールプロジェクト ・情報・解決策、計画書の作成	講義	教室	「大切な人」の情報を収集してくる。	
6	/	2-3. 人間の健康と病気とは	講義	教室		
7	/	2-4. 看護とは何か 看護であること、看護でないこと	講義	教室	看護であること、ないことを提出	
8	/	2-5. 「看護であること、看護でないこと」の発表会	発表会	教室		
9	/	3-1. 病気をもつ対象の理解(事例の理解)	講義	教室		
10	/	3-2. 病気をもつ対象の理解(事例の理解)	講義	教室	プレゼンの下書きを提出	
11	/	1-4. ナイチンゲールプロジェクト ・「大切な人の健康を守るための提案」をプレゼンテーション	発表会	講堂	模造紙1/2枚に記入	
12	/	3-3. 病気をもつ対象の理解(事例の理解)	講義	教室		
13	/	3-4. 病気をもつ対象の理解(事例の理解)	講義	教室		
14	/	1-5. ナイチンゲールプロジェクト ・「凝縮ポートフォリオ」の評価会	評価会	教室	A3用紙1枚に凝縮ポートフォリオ提出	
15	/	試験、授業のまとめ		教室	成長エントリーシート、成長報告書提出	
評価方法	<p>筆記試験と課題点で総合評価します。</p> <p>課題点60点: 発表会20点、凝縮ポートフォリオ20点、成長報告書5点、その他提出物15点</p> <p>筆記試験40点</p>					

教科書	講談社 『ナースがみる病気』 医学書院 『系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論』 医学書院 『系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ』 ヌーベルヒロカワ 『ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント』 現代社 『看護覚え書』 西東社 『ナイチンゲールの看護覚え書 イラスト・図解でよくわかる』
参考書	日本看護協会出版会 『看護の心を科学する』 日本看護協会出版会 『科学的看護論』
履修上の留意点	授業の理解を深めるための事前学習課題はほぼ毎回あります。そのつもりで計画的に学習をしましょう。

科目群: 専門分野 I

3年度	授業科目	コミュニケーション論	担当教員	中村 睦美	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
学習目的・目標	<p>目的: 看護職者として必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>目標: 1. コミュニケーションの特徴と医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ。 3. コミュニケーションの基本的な方法について学ぶ。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	／	1. コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 看護・医療におけるコミュニケーション ～いろいろなコミュニケーションを考えてみよう～	講義	教室		
2	／	2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーション手段 2) 構成要素と成立過程 3) ミスコミュニケーション 4) 看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のために ～プロセスレコードを使って振り返ってみよう～	講義	教室		
3	／	3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーションの基本 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションを成立させるためには ～患者様に寄り添ってみよう ナイチンゲールの三重の関心を寄せてみよ	講義	教室	教科書まとめ	
4	／	4. コミュニケーションの基本スキル(個人編) 1) セルフコミュニケーション 自分を知る 2) セルフコミュニケーション 自分を表現する 3) 相手を理解する 4) 相手と関係を築く	講義	教室		
5	／	5. プロセスレコードを使って関係を振り返る(リフレクション) 1) プロセスレコードの記述法 2) コミュニケーションに焦点をあてて関係性をみる	講義	教室	プロセスレコード	
6 7	／	6. コミュニケーションの基本スキル(集団編) 7. カンファレンスの模擬体験	講義 グループ ワーク	教室		
8		筆記試験(45分)				
評価方法	試験と課題で評価します。試験は45分で実施し、配点は80点です。課題の配点は20点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学[2] メヂカルフレンド社 知識と実践がにつながる看護学生のためのコミュニケーションLesson 奥山美奈					
参考書						
履修上の留意点						

科目群: 専門分野 I

4年度 第2学年	授業 科目	コミュニケーション技術	担当 教員	中村 睦美	単位(時間数)	1(30)	
					担当時間数	30	
学 習 目 的 ・ 目 標	<p>目的: 患者や医療従事者との関わりが自然にもてるようにコミュニケーション力(対話力・書く力・表現力)を育む。 また、看護場面を再構成して客観的に評価するための方法論を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 実習で役立つ患者への対応を学ぶ。 2. 実習がうまくいくナースへの報告学ぶ。 3. カンファレンスの運営方法を学ぶ 4. 看護場面を評価するための方法としてプロセスレコードの再構成・分析・考察方法を理解する。</p>						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. コミュニケーションの基本センス「聴く」「話す」			講義	教室	
2	/	2. カンファレンスの進め方(実習場面) 1)カンファレンスの種類・特徴 2)実習前の準備:役割の決定、テーマの選び方、カンファレンスの運営方法			講義 グループ ワーク	教室	カンファレンス 準備レポート
3	/	3. ショートカンファレンスの模擬体験と見学			講義 グループ ワーク	教室	カンファレンス 実施レポート
4	/	4. ショートカンファレンスの模擬体験 進め方をまとめて再度挑戦			講義 グループ ワーク	教室	カンファレンス レポート
5	/	5. 現場の場面から探るコミュニケーション・センス 1)安全、そして安楽に看護を行う 2)療養生活を組み立てる情報収集			講義	教室	
6	/	3)さまざまな環境・状況への対応 4)患者の苦痛や不安を読み取り、受け止める			講義	教室	
7	/	6. プロセスレコード 歴史、特徴、再構成			講義	教室	
8	/	7. 看護場面のプロセスレコードの書き方			講義	教室	
9	/	8. プロセスレコードを書いてみる			講義	教室	プロセスレコード
10	/	9. プロセスレコードを使って看護場面を振り返る 1)私と相手の対人関係、看護の視点からみた対人関係			講義	教室	
11	/	2)ケースカンファレンスの進め方 10. ケースカンファレンスを模擬体験する 1)大腸がん患者の事例 全体像理解			講義	教室	
12	/	2)事例を読む			講義	教室	
13	/	3)脳梗塞利用者の事例 全体像理解			講義	教室	
14	/	4)事例を読む			講義	教室	
15	/	試験・授業のまとめ				教室	
評価方法	試験と課題で評価します。試験は45分で実施し、配点は70点です。課題の配点は30点です。						
教科書	日本看護協会出版 看護場面の再構成						
参考書	医歯薬出版 仲間とみがかく看護のコミュニケーション・センス						
履修上の 留意点							

科目群:専門分野 I

3年度	授業科目	フィジカルアセスメント I	担当教員	石川 暁美	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験で培った対象のアセスメント技術を、体験的に学べるように演習形式で行っている。				
学習目的・目標	<p>目的:健康障害をもつ対象を把握し、アセスメント能力を修得する。</p> <p>目標: 1. フィジカルアセスメントの基本技術を修得する。                  2. バイタルサイン測定の方法を修得する。                  3. 呼吸のフィジカルアセスメントを修得する。                  4. 循環のフィジカルアセスメントを修得する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	留意点	
1	/	1. フィジカルアセスメントの概要 ・フィジカルアセスメントの意義、健康暦のインタビュー	講義 校内実習	実習室	白衣で参加	
2	/	2. フィジカルアセスメントの基本技術 ・視診、触診、打診、聴診 ・フィジカルアセスメントの原則 3. 一般状態とバイタルサインの観察 ・意識	講義 校内実習	実習室	学校指定のジャージで参加	
3	/	4. バイタルサイン ・体温	講義 校内実習	実習室	〃	
4	/	5. バイタルサイン ・呼吸、脈拍	講義 校内実習	実習室	白衣で参加	
5	/	6. バイタルサイン ・血圧	講義 校内実習	実習室	学校指定のジャージで参加	
6 7	/	7. バイタルサインの測定	講義 校内実習	実習室	白衣で参加	
8	/	8. 呼吸のフィジカルアセスメント(1) ・体の中をイメージする、チアノーゼ、バチ状指	講義 校内実習	実習室	学校指定のジャージで参加	
9	/	9. 呼吸のフィジカルアセスメント(2) ・胸郭の視診・触診、横隔膜の可動性	講義 校内実習	実習室	〃	
10	/	10. 呼吸のフィジカルアセスメント(3) ・呼吸音の聴診、異常呼吸音の聴診	講義 校内実習	実習室	〃	
11	/	11. 循環のフィジカルアセスメント(1) ・4つの弁領域の聴診、I音・II音の識別 ・心雑音、異常心音	講義 校内実習	実習室	〃	
12	/	12. 循環のフィジカルアセスメント(2) ・頸動脈の触診・聴診、頸静脈の視診、頸静脈圧の亢進、末梢動脈の触診、浮腫の観察	講義 校内実習	実習室	〃	
13	/	13. 呼吸のフィジカルアセスメント ・心不全で息苦しい事例の症状アセスメント	GW	実習室	〃	
14	/	〃	GW	実習室	〃	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	筆記試験と課題点で総合評価します。課題点は20点、試験は45分で実施し、配点は80点です。					

教科書	インターメディカ『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント』 医学書院『系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ』
履修上の留意点	校内実習における留意点：前日の授業後に準備をし、当日の授業後に片づけをします。 詳しい指示は、掲示板で掲示します。 ジャージでの頭髪は白衣に準じます。 課題における留意点：課題提出は授業前日の8時50分、校内実習の感想は翌日の8時50分までとする。

科目群: 専門分野 I

4年度	授業科目	フィジカルアセスメントⅡ	担当 教員	近藤 ゆかり	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験6年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験で培った対象のアセスメント技術を、体験的に学べるように演習形式で行っている。				
学習目的・目標	<p>目的: 健康障害をもつ対象を把握し、アセスメント能力を修得する。</p> <p>目標: 1. 『食べる・栄養をとりこむ』フィジカルアセスメントを修得する。                  2. 『排泄する』フィジカルアセスメントを修得する。                  3. 『身体を動かす』フィジカルアセスメントを修得する。                  4. 『見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す』フィジカルアセスメントを修得する。                  5. 『身体を守る』フィジカルアセスメントを修得する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 『食べる・栄養をとりこむ』フィジカルアセスメント 咀嚼し、嚥下する	講義 校内実習	実習室	毎回あります	
2	/	2. 『食べる・栄養をとりこむ』フィジカルアセスメント 消化・吸収する	講義 校内実習	実習室	"	
3	/	3. 『排泄する』フィジカルアセスメント	講義 校内実習	実習室	"	
4	/	4. 腹痛のある患者のフィジカルアセスメント	講義 校内実習	実習室	"	
5	/	5. 『身体を動かす』フィジカルアセスメント 歩くこと、関節の動き	講義 校内実習	実習室	"	
6	/	6. 『身体を動かす』フィジカルアセスメント 筋力、反射の動き	講義 校内実習	実習室	"	
7	/	7. 『見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す』フィジカルアセスメント	講義 校内実習	実習室	"	
8	/	"	講義 校内実習	実習室	"	
9	/	9. 『身体を守る』フィジカルアセスメント	講義 校内実習	実習室	"	
10 11	/	技術チェックのオリエンテーション・GW	グループ ワーク	実習室	"	
12	/	グループでの練習	グループ ワーク	実習室		
13	/	グループでの練習	グループ ワーク	実習室		
14	/	技術チェック 腹部のフィジカルアセスメント		実習室		
15	/	筆記試験・授業のまとめ		教室		
評価方法	筆記試験と課題点で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 技術チェックは評価に反映しないが、合格するまでチェックを受ける。					
教科書	インターメディカ『写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント』					

参考書	課題学習で参考になるテキスト（成人看護学;系統看護学講座）医学書院
履修上の留意点	演習における留意点：前日の授業後に準備をし、当日の授業後に片づけをします。 詳しい指示は、掲示板で掲示します。 服装は学校指定のジャージで、頭髪は白衣に準じます。 課題における留意点：課題提出は授業前日の8時50分、演習の感想は翌日の8時50分までとする。

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野 I

3年度	授業科目	看護共通基本技術	担当 教員	笹尾 みゆき 杉山 敏江	単位(時間数)	1(30)	
第1学年					担当時間数	30	
【笹尾みゆき】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験 16年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院での臨床経験をもとに培った看護技術から看護技術について講義する。					
【杉山 敏江】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験13年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務での看護の経験に基づいて、看護技術の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。					
目的・ 目標	目標: 1. 看護における技術とは何か、看護基本技術とは何かを理解する 2. 看護に必要な共通基本技術について理解する						
回数	月日		方法	場所	担当 教員	課題	
1	/	1. 技術の学習方法について 1)看護基本技術の位置づけなど 2. 看護技術とは何かを理解できる	講義	教室	笹尾		
2	/	1. 自分の1日の生活を知る 2. 自己紹介のための資料を作成	講義	教室		レポート	
3	/	1. 倫理について考える 1)倫理観って何?	講義	教室		レポート	
4	/	1. クラスメイトを知ろう 2. クラスメイトの一日の生活を知ろう	講義	在宅実習室		レポート	
5	/	1. 論理的に考えることを始めよう 1)看護記録をかいてみよう	講義	教室		レポート	
6	/	1. リフレクションをしてみよう 1)リフレクション用紙を書いてみよう	講義	実習室		レポート	
7	/	1. 看護技術について 1)安全・安楽について	講義	実習室		レポート	
8	/	1. ボディーメカニクス技術の基本	講義	教室	杉山		
9	/	2. 感染予防 1)感染予防の三原則	講義	教室			
10	/	2)感染予防の具体的方法 (1)スタンダードプリコーションに基づく手洗い (2)擦式消毒用アルコール製剤を使用した手指消毒 (3)防護用具の取り扱い方法	講義	教室			
11 12	/	3)感染予防の具体的方法の実践	校内実習	実習室		校内実習後の レポート	
13 14	/	3. 身体各部の測定 1)身体計測の目的と留意事項 2)身体計測の実践	講義 校内実習	実習室		校内実習後の レポート	
15	/	試験・授業のまとめ		教室			
評価方法	笹尾レポート評価50点、杉山筆記試験50点(45分)で評価し、60点以上を合格とする。 レポートの提出状況、内容も評価に反映する。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版						
参考書							
履修上 の 留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門分野 I

3年度	授業科目	日常生活援助技術 I	担当 教員	杉山 敏江	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験13年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験に基づいて、療養環境を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
学習 目的 ・ 目標	<p>目的:看護場面に必要な生活環境を整える援助技術を学ぶ。</p> <p>目標:人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を修得する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 療養生活の環境 1)人と環境 2)療養生活と環境 3)生活環境の調整	講義	教室		
2	/	2. 病室の環境のアセスメントと調整 1)病室・病床の選択 2)温度・湿度 3)光と音 4)色彩 5)空気の清浄性におい 6)人的環境 3. 病床を整える 1)ベッドメイキング ①目的 ②実施方法	講義	教室		
3 4	/	<ベッドメイキングの実施>	校内実習	実習室	事前学習 校内実習後のレポート	
5 6	/	2)リネン交換 ①目的 ②シーツ交換の実施方法  <臥床患者のシーツ交換の実施>	講義 校内実習	実習室	事前学習 校内実習後のレポート	
7	/	4. ベッド周囲の環境整備 ・環境整備の視点	講義 校内実習	実習室	校内実習後のレポート	
8	/	試験		教室		
評価方法	筆記試験(80点)と課題(20点)で総合評価し、60点以上を合格とします。試験は45分で行います。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
参考書	メディックメディア 看護がみえる vol.1 基礎看護技術					
履修上 の 留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野 I

3年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	担当教員	近藤 ゆかり	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15+研修2
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験6年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験に基づいて、運動と休息を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的: 看護場面に必要な基本となる援助技術を学ぶ 目標: 1.健康にとって運動-休息とは何かを理解する。 2.運動と休息のバランスを整えるための援助方法を修得する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 活動・運動 1)活動・運動の生理学的メカニズム 2)活動・運動のニーズについてアセスメントする	講義	教室	事前課題	
2	/	2. 休息・睡眠 1)休息・睡眠の生理学的メカニズム 2)休息・睡眠のニーズについてアセスメントする	講義	教室	事前課題	
3	/	3. 活動・運動を促す援助方法 (条件設定:麻痺のある患者) 1)ベッド上での移動	講義 校内実習	実習室	事前課題 校内実習後のレポート	
4	/	2)体位変換 3)安楽な体位の工夫				
5	/	4. 車椅子への移動・移乗、ベッドの移送	講義 校内実習	実習室	校内実習後のレポート	
6	/	5. リラクゼーションを促す技術	講義 校内実習	実習室	校内実習後のレポート	
7	/	看護に使えるリフレクソロジー				
8	/	試験		教室		
9	/					
評価方法	筆記試験(75点)と課題(25点)で総合評価し、60点以上を合格とします。試験は45分で行います。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
参考書	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学					
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 前日の授業後に準備をし、当日の授業後に片づけをします。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門分野 I

令和3年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ	担当教員	笹尾 みゆき	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験 16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院での臨床経験をもとに培った看護技術から、清潔ケアの方法について講義する。				
学習目的・目標	目的:看護場面に必要な清潔に関する基本となる援助技術を学ぶ。 目標: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の清潔への援助の必要性を理解し方法論を修得する</li> <li>2. 衣生活に関する援助の必要性を理解し方法論を修得する</li> </ol>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1.授業の全体が理解できる 2. 清潔の意義を解釈する 3. 皮膚・粘膜の構造を解釈する 4. 清潔援助の種類を解釈する 5. グループ分けをする	講義	教室		
2	/	1. 清拭の実施 2. 寝衣交換の実施	校内実習	実習室		
3	/	1. 洗髪の実施 2. 手足浴の実施	校内実習	実習室		
4						
5	/	1. 安全な清潔ケアを考える	校内実習	実習室		
6	/	1. 安楽な清潔ケアを考える 2. 安楽な清潔ケアを考え、実施する	校内実習	実習室		
7	/	1. 安心して受けられる清潔ケアを考える 2. 安心して受けられる清潔ケアを考え、実施する	校内実習	実習室		
8						
9	/	1. 最も清潔を保つ必要がある部位の清潔ケアを考え実施する	校内実習	実習室		
10	/	1. 口腔ケアの必要性を考え実施する 2. 頭皮、頭髪の清潔ケアがなぜ必要か考え実施する	校内実習	実習室		
11						
12	/	1. 手足浴の清潔ケアがなぜ必要なのか考え、実施する	校内実習	実習室		
13	/	1. 技術テストの清潔ケアのデモンストレーションから方法を考え、実施する。	校内実習	実習室		
14	/	1. 看護師が行う清潔ケアのポイントを定義する	校内実習	実習室		
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	レポート点30点、筆記試験70点(45分)で評価し、60点以上を合格とする。レポートの提出状況、内容も評価に反映する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
参考書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①					
履修上の留意点	実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、授業に臨んでください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門分野 I

3年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅳ	担当教員	内田 ひかり	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験7年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験に基づいて、食と排泄ケアの具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的: 看護場面に必要な食と排泄のバランスを整えるための基本となる援助技術を学ぶ。 目標: 1. 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取に関する援助方法を修得する 2. 人間の排泄に関するメカニズムを理解し、患者が健康的な生活を送るために必要な援助方法を修得する					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	食事援助の基礎知識 1. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 1) 栄養状態のアセスメント 2) 水分・電解質バランスのアセスメント 3) 食欲のアセスメント 4) 摂取・嚥下能力のアセスメント 5) 摂食行動のアセスメント 2. 医療施設で提供される食事	講義	教室		
2	/	食事摂取の介助 1. 援助の基礎知識	講義	教室	2. 援助の実際	
3	/	<食事介助の実施>		校内実習	実習室	
4	/	非経口的栄養摂取の援助 1. 経管栄養法 1) 援助の基礎知識	講義	教室	2) 援助の実際	
5 6	/	<経鼻経管栄養法の実施>		校内実習	実習室	
7	/	自然排尿および自然排便の介助 1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3) アセスメント	講義	教室		
8	/	2. 自然排尿および自然排便の介助の実際 1) トイレにおける排泄介助 <ポータブルトイレでの排泄援助の実施>	講義 校内実習	実習室		
9	/	2) 床上排泄援助 <便器を使つての床上排泄援助の実施> 浣腸 1. グリセリン浣腸の援助の基礎知識	講義 校内実習	実習室		
10 11	/	<グリセリン浣腸と床上で便器を用いた排泄援助の実施>		校内実習	実習室	
12	/	導尿 1. 一時的導尿・持続的導尿	講義	実習室	・援助の基礎知識	
13 14	/	<一時的導尿の援助の実施>		校内実習	実習室	
15	/	試験、授業のまとめ				
評価方法	筆記試験と課題で総合評価し、60点以上を合格とします。試験は45分で行います。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
参考書	メディックメディア 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術					
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野 I

3年度 第1学年	授業科目	診断・治療を助ける援助技術 I	担当教員	杉山 敏江	単位(時間数)	1(15)
					担当時間数	15
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験13年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務での看護の経験に基づいて、看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的: 看護場面に必要な診断・治療の援助技術を学ぶ。 目標: 1. 感染予防の具体的な援助方法を修得する 2. 呼吸・循環を整える援助方法を修得する					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 診察と看護 ・診察の介助の目的 2. 無菌操作 ・無菌操作の基礎知識 ・対策の実際	講義	教室	事前課題プリント	
2 3	/	<無菌操作の実施>	校内実習	実習室	事前学習課題 校内実習後のレポート	
4	/	3. 包帯法 ・援助の基礎知識 ・援助の実際  <包帯法の実施>	講義 校内実習	実習室	校内実習後のレポート	
5	/	4. 呼吸・循環を整える技術 ・酸素療法 ・体位ドレナージ ・吸引(口腔・鼻腔) ・吸入	講義	教室	事前課題プリント	
6 7	/	<酸素吸入、ネブライザー吸入、口腔・鼻腔吸引の実施>	校内実習	実習室	事前学習課題 校内実習後のレポート	
8	/	試験		教室		
評価方法	試験(80点)と課題(20点)で総合評価します。試験は45分で実施します。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ インターメディカ 写真でわかる臨床看護技術①・② 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
参考書						
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野Ⅱ

4年度	授業科目	診断・治療を助ける 援助技術Ⅱ	担当 教員	近藤 ゆかり 水野 千恵	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
学習目的・目標	<p>目的: 看護場面に必要な診断・治療の援助技術を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 与薬の援助方法を修得する 2. 検査の援助方法を修得する</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1. 与薬 1) 与薬の目的 2) 各職種間の責任と権限 3) 薬剤の管理	講義	教室	①②③	
2	/	2. 与薬の実際 1) 与薬の種類と特徴 2) 与薬時の留意事項				
3	/	3) 経口与薬法 4) 直腸内与薬法	デモンストレーション	実習室	①②③	
4	/	5) 注射法 6) 輸血管理	講義	実習室	①②③	
5	/	7) 注射法の実施 (1) 皮下注射法	デモンストレーション	実習室	①②③	
6	/	(2) 筋肉内注射法	校内実習	実習室	①②③	
8	/	(3) 点滴静脈内注射法	校内実習	実習室	①②③	
9	/					
10	/	(4) 点滴静脈内注射法の実施	校内実習	実習室	①②③	
11	/					
12	/	3. 検査と看護 1) 検査の目的と種類 2) 検査における看護師の役割 3) 静脈血採血について	講義	教室	①②③	
13	/	4) 静脈採血の実施	校内実習	実習室	①②③	
14	/					
15	/	試験	講義	教室		
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。					
教科書	①医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ『基礎看護技術Ⅱ』基礎看護学③ ②インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術』①② ③医学書院 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』					
参考書						
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 演習に際しては、看護師役・患者役を体験します。実習室は、臨床の場であることを認識し、 服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

科目群: 専門分野 I

3年度	授業科目	看護基本技術	担当 教員	杉山 敏江 笹尾 みゆき 石川 暁美	単位(時間数)	1(30)	
第1学年					担当時間数	30	
【笹尾みゆき】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験 16年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院での臨床経験に基づいて、看護技術の具体的な方法を指導している。					
【杉山 敏江】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験 13年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院での臨床経験に基づいて、看護技術の具体的な方法を指導している。					
【石川 暁美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験 16年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院での臨床経験に基づいて、看護技術の具体的な方法を指導している。					
学習 目的 ・ 目標	目的: 基礎看護学における基本技術を修得する。 目標: 1) 肺炎でベッド上安静患者のシーツ交換ができる。 2) ベッド上安静患者の体位変換、部分清拭、寝衣交換ができる。 3) 肺炎でベッド上安静患者のバイタルサインの測定と呼吸音のアセスメントができる。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当教員
1	／	肺炎でベッド上安静患者の『シーツ交換』 ・技術試験オリエンテーション ・援助方法の検討			講義	実習室	杉山
2	／	・検討した援助方法での実施			校内実習	実習室	
3	／	・検討した援助方法での実施			校内実習	実習室	
4	／	肺炎でベッド上安静患者の『シーツ交換』 ・技術試験			試験	実習室	笹尾
5	／	ベッド上安静患者の『体位変換、部分清拭、寝衣交換』 ・技術試験オリエンテーション ・援助方法の検討			講義	実習室	
6	／	・検討した援助方法での実施			校内実習	実習室	
7	／	・検討した援助方法での実施			校内実習	実習室	石川
8	／	ベッド上安静患者の『体位変換、部分清拭、寝衣交換』 ・技術試験			試験	実習室	
9	／	肺炎でベッド上安静患者の『バイタルサインの測定と呼吸音聴取』 ・技術試験オリエンテーション ・援助方法の検討			講義	実習室	
10	／	・検討した援助方法での実施			校内実習	実習室	石川
11	／	・検討した援助方法での実施			校内実習	実習室	
12	／	肺炎でベッド上安静患者の『バイタルサインの測定と呼吸音聴取』 ・技術試験			試験	実習室	
13	／						
14	／						
15	／						

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各技術試験の評価表を使用し、評価視点にそって評価する。</li> <li>・配点はシーツ交換:30点、清拭他:35点、バイタルサインの測定と呼吸音聴取:35点とする。</li> <li>・再試験、単位認定試験で合格した場合は各配点の6割とする。 (各配点の6割は、シーツ交換:18点、清拭:21点、バイタルサインの測定と呼吸音聴取:21点)</li> <li>・授業科目の評価は、各技術試験の得点を合計する。</li> </ul>
教科書	<p>医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②</p> <p>医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③</p> <p>インターメディカ 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント</p> <p>医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術</p>
参考書	
履修上の留意点	<p>1) 技術試験の全体オリエンテーションおよび各技術試験のオリエンテーションを踏まえ、技術試験に臨んでください。</p> <p>2) 技術試験オリエンテーションの内容は、別紙を参照してください。 技術試験の計画、評価、技術訓練実施上の留意事項、教員からの指導の受け方などなどの詳細を表現してあります。</p>

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群:専門分野 I

3年度	授業科目	看護過程展開の方法	担当教員	深谷 英子	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
【深谷英子】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験9年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(循環器・外科病棟)での患者への看護経験に基づいて、看護過程の展開の方法を講義する。				
学習目的・目標	<p>目的:対象の見つめ方と看護過程展開の方法(道具の使い方)を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 看護過程展開の意味を理解する。                  2. アセスメントの枠組みに沿った情報収集と分析のしかたを理解する。                  3. 看護問題の抽出方法を理解する。                  4. 看護計画を立案する方法を理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 看護過程とは 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	講義	教室		
2	/	2. 看護過程の各段階	講義	教室		
3	/	3-1. 看護過程の展開(A氏の事例)	講義	教室	事前課題	
4	/	3-2. 看護過程の展開(A氏の事例)	講義	教室	事前課題	
5	/	4-1. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
6	/	4-2. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
7	/	4-3. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
8	/	4-4. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
9	/	4-5. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
10	/	4-6. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
11	/	4-7. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
12	/	4-8. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
13	/	4-9. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
14	/	4-10. 看護過程の展開(B氏の事例)	講義	教室	事前課題	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	筆記試験と課題点で総合評価します。課題点は60点、試験は45分で実施し、配点は40点です。					
教科書	医学書院 『系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I』 ヌーベルヒロカワ 『ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント』 メディックメディア『病気がみえる 2 循環器』					
参考書	医学書院 『目でみるからだのメカニズム』					
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在